

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	精神保健学(Mental Health)	授業コード	E027901
担当教員名	高橋 淳一郎		
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	産業カウンセラー取得を目指す学生は必須です		
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。		
教科書	未定		
参考文献及び指定図書	発達臨床心理学の最前線 杉原一昭(監修) 教育出版 精神医学ハンドブック 小此木啓吾・深津千賀子・大野裕(編) 創元社 知っておきたい精神医学の基礎知識 上島国利・上別府圭子・平島奈津子(編) 誠信書房 精神保健—子どもと家族の援助のために— 春原由紀(編著) 樹村房 児童の福祉を支える 家族援助論 吉田眞理 萌文書林 DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引き 高橋三郎・大野裕・染矢俊幸(訳) 医学書院		
関連科目	臨床心理学、カウンセリング、発達心理学		

授業の目的	現代社会では、人は多くのストレスにさらされています。対人関係がうまく取れない人や親子関係のひずみの中で歪みを抱える子ども、核家族化の中で孤立していく親など、精神的なケアを必要とする人はこれから先ますます増えていくでしょう。この講義では精神的な安定を援助するために、まずは様々な精神保健に関わる問題を学んでいきます。そして、これからの社会において精神的安定のためにどのような援助が必要であるか考えていきたいと思えます。
授業の概要	この講義では精神的な安定を援助するために、まずは様々な精神保健に関わる問題を学んでいきます。そして、これからの社会において精神的安定のためにどのような援助が必要であるか、そして自分自身の精神的健康のために知っておくべき知識やスキルについて考えます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：精神的健康とは</b> 体の健康と違い、心の健康はわかりにくい概念です。ここでは全体的な「健康」ということばの意味から、われわれが人生においてどのような問題と向き合っていくのか考えていきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと
<b>第2週：社会の変化と精神保健</b> 社会が大きく変化する中で、人の心の健康を支えるものは何か、戦後の日本の歴史と照らし合わせながら自殺の問題、そしてニート・フリーターなども含めて考えていきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと
<b>第3週：家族の変化と精神保健</b> 社会と同様に、家族のあり方についても大きく変化しています。核家族化が進行し、それが主流となった我が国において、家族成員の心の健康をどのように維持していくのか、その問題点と対策について講義していきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと
<b>第4週：職場のメンタルヘルス①</b> 戦後、日本社会が大きく変わっていった中で当然のことながら職場の環境や働き方も、それまでとは大きく様変わりました。私たちが安心して働くためには何が必要か、職場における危機介入のあり方や休職および復職の支援方法について考えていきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと
<b>第5週：職場のメンタルヘルス②</b> 前回は踏まえて、職場のメンタルヘルス活動に関連する法律・法規をもとに職場でのメンタルヘルスがどのように展開されていくのか解説し、EPAプログラムについても触れたいと思います。また、働く人の問題としてのアルコール依存やテクノストレスについても説明していきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと
<b>第6週：ソーシャルサポートとストレスマネジメント</b>	

これまで精神的健康(もしくは不健康)について考えていきましたが、精神的健康が維持されるためにはどのような援助が必要なのでしょう。また、自己の健康管理の面から日常ストレスと上手に付き合っていく方法はないのでしょうか。ここでは自他の健康維持への援助方法を学んでいきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第7週：虐待</b> 福祉とも関連が深く、現代社会の大きな問題の一つとなっている虐待について、その心理的影響を中心に概説していきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第8週：発達障害①</b> 発達障害の中でもよく目にする知的障害(精神遅滞)について、診断基準をもとにしながらかその症状について解説していきます。その中で障害を持つ人への援助方法についても考えていきたいと思います。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第9週：発達障害②</b> 近年よく話題とされる自閉症スペクトラム全般について解説し、障害を持つ人やその家族の苦悩などについて映像を用いながら考えていきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第10週：発達障害③</b> いわゆる軽度発達障害と言われる学習障害(LD)とADHDの特性について解説していきます。また、映像も交えながら気づかれにくい障害の難しさについて考えていきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第11週：精神疾患①</b> 精神疾患の中でも非常に有名な統合失調症について、陽性症状群と陰性症状群の主要症状と治療方法について解説していきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第12週：精神疾患②</b> 最近では珍しくなくなったうつ病(気分障害)について、実際に発症した人の事例を交えながら治療方法や社会復帰までの支援方法について考えていきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第13週：精神疾患③</b> パニック障害とPTSDの症状について説明します。さらに、心身症の症状にも触れ、いわゆる神経症と言われていた精神疾患の原因と治療のあり方を考えていきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第14週：精神疾患④</b> 気づかれないだけで潜在的には多くの患者がいると考えられるパーソナリティ障害について、10種類それぞれの行動や思考の特徴とパーソナリティ障害の治療方法について考えていきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第15週：攻撃行動と非行問題</b> 攻撃行動というのは単なる問題行動と見られがちですが、その背景には深い意味が隠されていることが少なくありません。ここでは表にあらわれないその意味を読み取るとともに、社会を映す鏡とも言われる非行問題について、戦後60年間にわが国において非行がピークとなった時期の社会問題と子どもたちを取り巻く環境について考えていきます。	リアクションペーパー提出 各自復習のこと	
<b>第16週：期末試験</b> これまでの内容について論述形式の試験を実施します。自筆ノートおよび講義内に配布したプリントは持ち込み可とし、試験時間は60分です。		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①精神的健康の概念を理解し、健康的な生活を送ることの意味とそれが困難な現状の問題点を探索していくことができる。
<b>【知識・理解】</b>	②発達障害について学び、その症状や対応方法について理解できる。 ③代表的な精神疾患について学び、その症状や対応方法などについて理解できる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	④精神的健康の重要性を理解し、それを援助するスキルを身につける基礎的な知識を得ることができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	⑤不適応行動の意味について理解できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	20点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	30点	5点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	5点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	20点	5点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	毎回の講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容について点数化し、評価に加えます。評価方法は以下の通りです。 A 講義の内容をよく理解し、振り返りながら自分の考えをしっかりと述べている。 B 講義の内容をよく理解し、振り返ることができる。 C 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができる。 D 講義の内容を一部理解し、振り返ることができる。
発表・その他 (無形成果)	出席点を20点満点とし、1回の欠席ごとに2点を減点する方式で評価に取り入れます。